

つなげているのは世界
支えているのは社会

VALVE SOLUTION



次の100年に向けて、
夢を、心を、技術をつなぐ企業へ



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当第23期中間期の株主通信をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

既にご案内のとおり当中間期の決算は、前年同期に比して大幅な減収減益となりました。当社グループの主要収益源である原子力発電所の定期検査工事が下半期に集中していることがその主な要因で、これは当初より折り込み済みのところでした。

しかし、コロナ禍による世界的な事業活動停滞の影響で、想定以上に事業環境低迷が続いており、特に新規プラント案件については、依然回復の兆しを感じることができない状況から、下半期の売上計画についても当初想定を下回る見通しで、決算発表に際し、業績予想の修正を実施したところです。

また、今回の修正では配当予想の修正も併せて行いました。100周年を迎えることができたのも、株主の皆様より応援をいただきましたおかげと心より感謝申し上げます。些少ではございますが、記念配当を中間・期末に分け、それぞれで実施させていただきます。なお、当期業績の悪化を受け、普通配当につきましては当初予想を減額させていただきます。株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

さて、ウクライナ情勢の激化により、世界的にエネルギー安全保障の議論が活発化しています。地球環境保全のために再生可能エネルギーの推進は極めて重要であり、同時に経済活動を支え生活を守る安定的なエネルギー確保も重要です。当社グループは、その中核を為す、原子力・火力発電所の安全・安定運転に貢献する使命を全うすべく、持てる力の全てを発揮してまいりました。現下の危機感が今後、我が国のエネルギー政策にどのような変化をもたらすことになるのか注視し、あらゆる変化に対応して社会の期待に応えられるようこれからも努力していく所存です。

株主の皆様には引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

代表取締役
社長執行役員

逆野 幸男

History

沿革

1922年3月
20s 太田工業商会として創業

1922年3月~
パルプ、コック、スチームトラップ製造販売

1932年11月
30s (資)虫印バルブ製作所と改称

1940年4月
40s 虫印バルブ製造(株)を設立

1942年5月
50s 社名を東亜バルブ(株)と改称

1953年1月
50s 労働省(現 厚生労働省)より労働安全衛生規則の規定に基づく汽缶用安全弁を認定

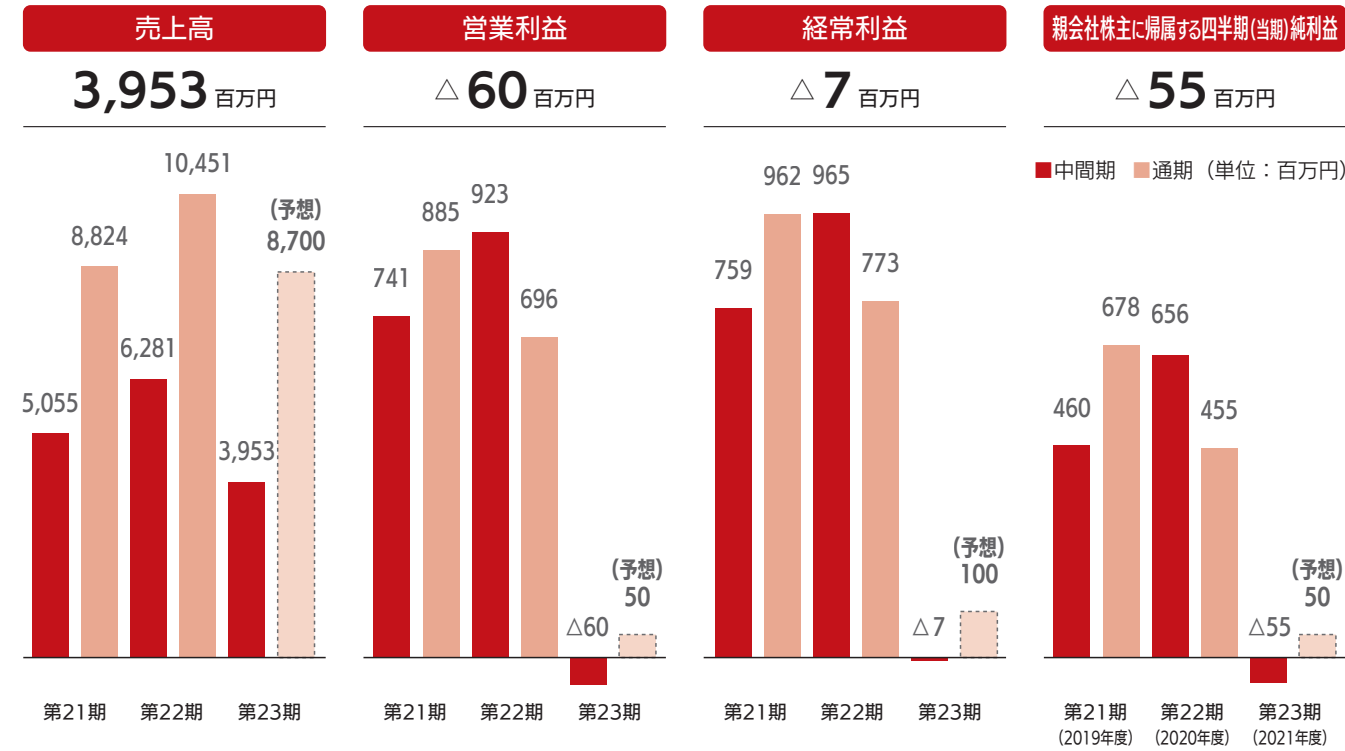
1954年3月
60s 運輸省(現 国土交通省)より船用鑄鍛鋼玉形及びアングル弁類について日本工業規格(JIS)表示を認可

1961年10月
大阪証券取引所市場第二部に株式上市

1962年
60s 日本初国産の「主蒸気塞止弁」を東北電力(株)仙台火力発電所に納入

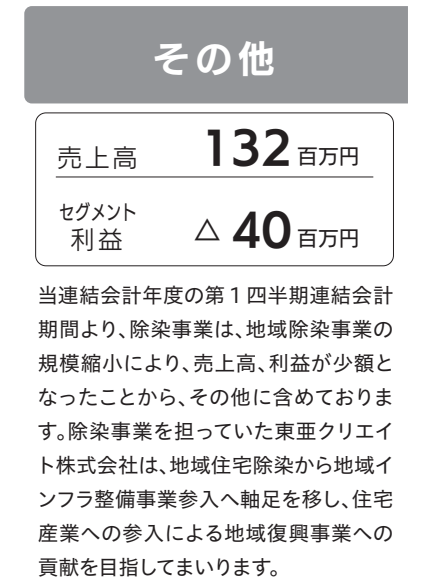
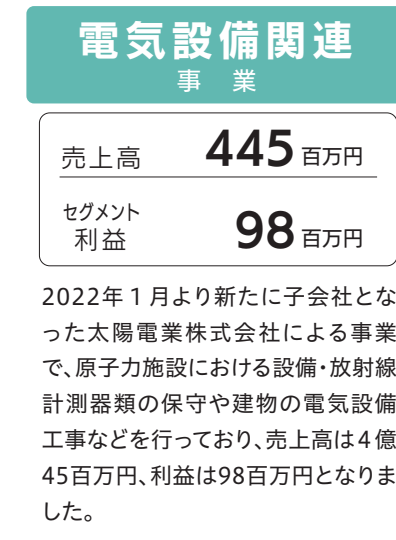
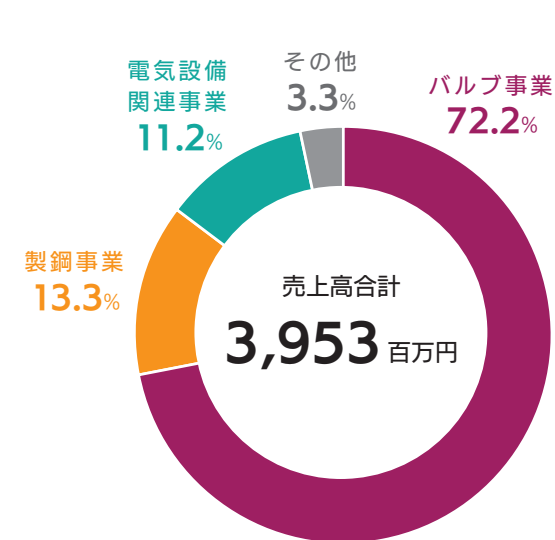
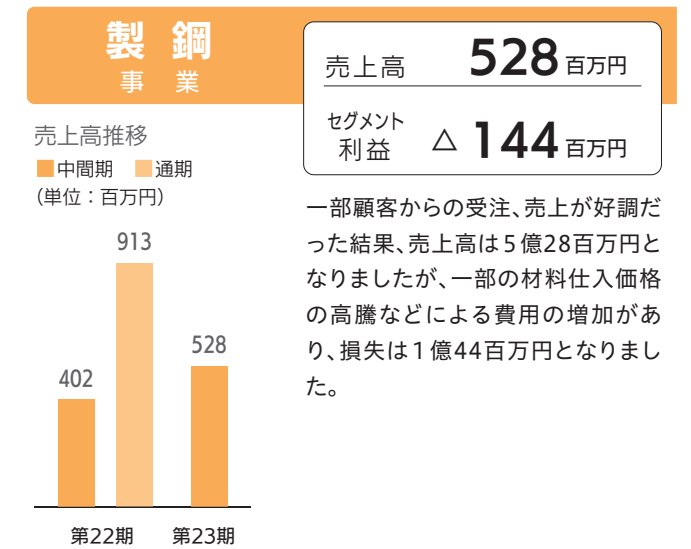
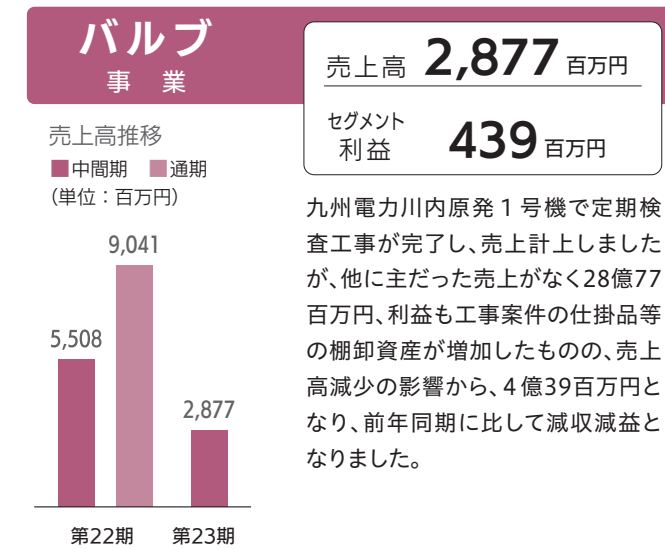
POINT 1 主力であるバルブ事業において、九州電力川内原発1号機で定期検査工事が完了し、売上計上しましたが、他に主だった売上が無く、前年同期に比べ売上高は大幅に減少しました。

2 バルブ事業などにおける売上高の減少が大きく影響し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ、それぞれ大幅に減少しました。



配当について 第23期の中間配当につきましては、**1株当たり25円**とさせていただきます。(内訳：普通配当15円、創業100周年記念配当10円)

● 詳細な財務情報は、当社ホームページをご覧ください <https://www.toavalve.co.jp/>



1971年4月 東京証券取引所市場第二部に株式上市

1974年9月 東亜エンジニアリング(株)設立

1969~1970年 国産初商業用原発の日本原子力発電(株)敦賀1号(BWR)、関西電力(株)美浜1号(PWR)に弁類を納入し、大阪万博への電力供給に貢献

1973年8月 九州電力(株)玄海1号(PWR)に国産初の「加圧器安全弁」を納入

1987年1月 中国秦山原発1号に一次系・二次系一般弁を納入

1988年10月 「現地弁座交換(切削・溶接)装置」開発を開始し12月に発電所にて施工

1989年10月 「主蒸気安全弁吹出し圧力自動検査装置」を関西電力(株)高浜発電所に国内初納入

1989年7月 ティー・エス・ケー(株)(現 トウアサービス(株))を設立

2000年3月 株式移転により(株)トウアバルブグループ本社設立

2000年6月 (株)高田製鋼所を完全子会社化

2002年10月 シンガポールにTOA VALVE OVERSEAS Pte. Ltd.を設立

2006年10月 (株)高田製鋼所を会社分割により東亜バルブ(株)に吸収

2008年10月 東亜バルブ(株)が東亜エンジニアリング(株)を吸収合併し、東亜バルブエンジニアリング(株)となる

2000年11月 ISO9001 バルブメンテナンスにおいて取得

2002年3月 中国電力(株)三陽発電所1号機に国内最大のサイズ1175mmの低温再熱蒸気管止弁(アインレーションデバイス)を納入

2007年1月 JAXA(宇宙航空研究開発機構)に「環状燃焼試験設備改修工事排ガス圧力調整弁」を納入

2009年5月 ISO9001 製鋼製造において取得

2010年4月 (株)トウアバルブグループ本社が、子会社である東亜バルブエンジニアリング(株)を吸収合併し、社名を東亜バルブエンジニアリング(株)と改称

2010年7月 中国HEハルビン・パワー・プラント・バルブ社と「抽気逆止弁」「鍛造玉形弁」の製造に係る技術提携を締結

2013年4月 中国HEハルビン・パワー・プラント・バルブ社と「湿分離加熟器逃がし弁」の製造に係る技術提携を締結

2011年2月 スパナ、レンチによるトルク締めを必要としない「液圧ナット」の製造販売を開始(原子力設備専用)

2011年10月 中国原発AP1000三門1号にサイズ600mm湿分離加熟器逃がし弁を納入

2014年7月 福島県いわき市に東亜クリエイト(株)を設立

2016年2月 (株)キッツと資本業務提携契約を締結

2016年12月 会社機関設計を「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行

2019年10月 福井県大飯郡にTVEリファインメタル(株)を設立

2020年8月 シンガポールの子会社TOA VALVE OVERSEAS Pte. Ltd.の社名をTVE GLOBAL ASIA PACIFIC Pte. Ltd.と改称

2020年10月 社名を(株)TVEと改称

2022年1月 太陽電業(株)を子会社化

2022年3月 創業100周年を迎える

TOPICS

01

太陽電業株式会社がTVEグループの一員に

2022年1月、当社は太陽電業株式会社を子会社化いたしました。創業以来44年、原子力・火力発電事業を主要事業とし、民間企業や官公庁発注の建築付帯電気設備工事等に携わってきた会社です。

本社を東京都大田区に置き、社員数102名。現在は、原子力発電所に関わる事業を主業務とし、福島、新潟、宮城、青森など東日本地区各県に事業所・作業所等の拠点を設け、廃炉事業をはじめとする原子力発電所事業の一翼を担っています。



今回のグループ会社化を機に、従来にも増して社会課題の解決に貢献する企業として、ともに取り組んでまいります。

会社概要

☎ 太陽電業株式会社

所在地 東京都大田区蒲田1丁目30番10号
設立日 1978年1月5日
資本金 5,000万円（当社出資比率100%）

事業内容

〈エネルギー産業関連事業〉

原子力発電所関連

- ・プロセス計装設備の改造工事、保守点検
- ・電気設備の改造工事、保守点検
- ・放射線廃棄物処理設備の改造工事、保守点検
- ・放射線計測器の点検、校正など

太陽光発電関連

- ・太陽光発電設備の施工など

〈電気設備関連事業〉

庁舎や校舎等の公共施設及び民間企業ビル、工場等の電気・通信設備工事

- ・建築付帯電気、通信設備工事
- ・特高受変電設備据付工事など

〈エンジニアリング関連事業〉

- ・上下水道施設における電気設備機器の調整試運転

TOPICS

02

中期経営計画

TAMES-Factory推進中

TAMES-Factoryとは、中期経営計画にうたわれている「経営基盤の構造改革」TAMES-Projectの柱の一つで、パルプ製造部・調達部・製鋼製造部といった現場における「生産性向上」を目指した改善・改革活動です。現業部門における災害・故障ゼロを目指し、社内設備などの高経年化対策の実施や、スムーズな工程の流れを意識した“作業の標準化”による「リードタイムの短縮」の実現化など、生産性向上に寄与することが大きな目的となります。

部門の垣根を越えた提案や協力依頼を行い、全社的に改善の意識を高め、進化と探求心を持って挑戦し続けたいと考えております。

これからもTAMES-Projectの推進により、グローバルニッチトップへの道しるべとなるよう、持続的改善活動に取り組んでまいります。



具体的な改善例

パッケージ安全弁組立ラインの見直しを行い

- ・各工程間のムダな停滞が発生しない、在庫が発生しない
- ・一人の作業で着工から自主試験までを完結する
- ・作業スペースの縮小化

などの効果が生まれ、リードタイム短縮に成功。年間2,000台強の生産が可能となりました。

会社の概況

(2022年3月31日現在)

商号	株式会社TVE
英文	TVE Co., Ltd.
証券コード	6466
所在地	〒660-0054 兵庫県尼崎市西立花町五丁目12番1号
設立日	2000年3月16日
資本金	17億3,955万9,810円
事業内容	各種バルブ、鋳鋼製品の製造販売、 各種バルブのメンテナンス業務
従業員	304名（連結418名）

株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	10,040,000株
発行済株式の総数	2,461,600株
株主数	1,344名
大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社キッツ	302,200	13.14
西華産業株式会社	203,200	8.84
株式会社UH Partners 2	183,700	7.99
光通信株式会社	171,400	7.45
TOA取引先持株会	100,100	4.35
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	82,300	3.58
NPBN-SHOKORO LIMITED	76,200	3.31
株式会社エスアイエル	54,700	2.38
前島崇志	50,000	2.17
株式会社三菱UFJ銀行	46,300	2.01

※当社は自己株式162,147株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
期末配当金 受領株主確定日	9月30日
中間配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toavalve.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)にお問い合わせ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店におきましてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店でお支払いいたします。



TVE 株主通信アンケート結果について

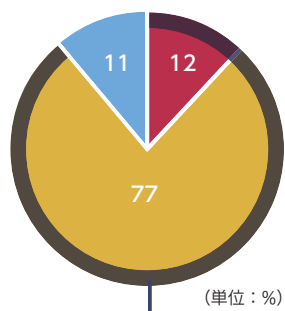
[株主通信]第22期 報告書で告知したWEBアンケート結果を報告します。

【実施期間】 2021年12月24日～
2022年2月20日

【回答者数】 35名

当社株式の今後の保有方針

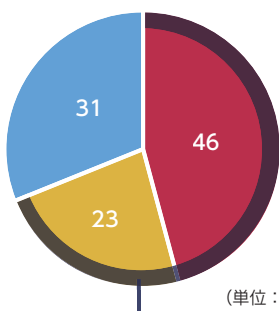
- 買い増し
- 長期保有(1年以上)
- 未定



「買い増し」「長期保有」が89%を占めています。

株主通信の掲載内容の評価

- 分かりやすく掲載内容も十分
- 分かりやすいが掲載内容を充実すべき
- 分かりやすさも掲載内容も平均水準



「分かりやすく掲載内容も十分」「分かりやすいが掲載内容を充実すべき」を合わせて69%。前回より11ポイントアップしました。

興味深かった記事

業績(実績)説明	43
経営者メッセージ	40
業績見通し	34
事業の内容	29
製品・サービスの情報	26
財務ハイライト	23
株式関係情報	9
配当等株主還元情報	9
財務諸表	6
株主メモ	3
CSR関係情報	0

(単位: %)

今後充実させたい内容

業績(実績)説明	43
事業の内容や特徴	40
業績見通し	40
製品・サービスの情報	31
アンケート結果報告	6
その他	3
CSR関係情報	0

(単位: %)

主なコメント

- ・SDGsに力を入れてほしいです。
- ・業績低迷のレビューを行い打開策を明示していただきたい。また三菱グループ傘下から外れた事の影響についても知りたい。
- ・100周年の企業は一握りの中、すごいと思います。これからも企業存続150年、200年と頑張ってください。

- ・新規事業(アールキューブエフシー)のような、新しい取り組みが載っているのがよかったです。内容も、廃炉という社会貢献にも載すお話だったので。
- ・更なる業績向上に期待しています。
- ・安心して保有しています。持続的な成長を期待しています。